

# 「健康小話」

## 「僻地（へきち）」



産山村診療所  
渡邊克己 先生

先日、県へき地医療支援機構主催の講演会に出席しました。出席者は県内一円ですが、医師も含む40名程度の小さな会でした。講師は中国地方から招かれ、内容もまとまった良い講演会でした。

産山村は無医村ではなくても無医地区があると云うことで、案内が来たのでしよう。無医地区の定義は、「半径4キロメートル内に50人以上が住み、医師が常駐しない地域」を指すとなっています。産山村では北部で田尻・竹の畑地区、南部の片俣地区が相当するのでしょうか。昭和31年より僻地保険医療対策は取られているそうです。

大学病院から派遣され、院長となつて約35年、人口一万人弱の町に医師35名を擁する総合病院をつくり、地域の予防医学からリハビリ・介護まで含めた地域完結型医療を展開しているのです。全国的には長野県の佐久総合病院や諏訪中央病院が有名です。そこには若月俊一・今井澄（共に故人）という、強烈な個性の農村医学や社会医学のリーダーが居ました。

今井先生の同僚だった鎌田實氏は、今やテレビや書籍でも引っぱりだこのです。

医療は日進月歩で、一人の医師で出来ることは限られています。専門的知識と技術を持った専門医集団が、高度な医療が実践されます。一方で、先日の新聞によると県下の自治体病院では、今春から14名の医師が居なくなるそうです。

格差がいろんな分野で云われ、所得格差や医療格差もその一つです。城南町約103万円、次いで嘉島町・熊本市・阿蘇市、一方相良村は約63万円、湯野前町・多良木町と続きます。これは今よく問題にされる受給者一人当たりの老人医療費です。高額な医療が高度の医療とは限りません。ここは九州熊本産山村、時代も違い状況も変わってきました。交通網・情報網を活かせば、本当に必要なときに必要な医療を受けることも可能です。3時間後には東京の病院で手術を受けているかも知れないのです。さて、「へきち」とは・・・？

# Hello ノーランです！

翻訳：佐藤 展幸（中学校）



こんにちは、ノーランです。春は卒業の季節ですね。先日（13日）産山中学校の卒業式に参加しました。素敵な式典でした。卒業生が学校を巣立っていくのは寂しいです。3年生とは5ヶ月と短い間のお付き合いでしたが、とても良い関係を作ることができたと思います。生徒たちはとても心温かく私に接してくれましたし、彼らのおかげで中学校の仕事も楽しかったです。ぜひ卒業後も中学校に遊びに来てほしいと思います。保護者の皆さん、お子さんのご卒業おめでとうございます。お子さんたちはとても賢く、思いやりがありました。

3年生の卒業に加えて、学校の先生たちの人事異動の時期でもあります。産山ではこの約半年素晴らしい先生たちと一緒に仕事ができてたいへん良かったと思います。私が自分の気持ちをうまく伝えきれなくても、先生方はとても親切でよくお手伝いしてもらいました。すべての先生方に感謝しています。異動になる先生が多くなければ良いなと思います。異動される先生方、新しい学校でのご活躍を期待しています。今までありがとうございました。

最後に、もうすぐ小学6年生が中学校に新1年生として入学してきます。この6ヶ月間、「わくわくマンデー」の英会話授業で6年生たちと一緒に英語を勉強してきました。とても楽しい子どもたちなので、中学校の授業で会えるのを楽しみにしています。すでにたくさんのお話を学んでいる子たちなので、中学校にすぐ慣れることでしょう。

